

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果について

東大阪市教育委員会 学校教育部 学校教育推進室

文部科学省が毎年度行っている全国学力・学習状況調査について、東大阪市立小中学校・義務教育学校の結果をお伝えします。(調査目的等の概要はP9に記載)

◆今年度の結果概要

<教科>

小学6年生/義務教育学校6年生(国語・算数)、中学3年生/義務教育学校9年生(国語・数学)を対象に調査が行われました。本市では、いずれの教科も全国平均にはとどきませんでした。中・義務教育学校の数学については、昨年度からわずかに改善がみられました。(表①)

また、すべての教科において、文章等によって自身の考えを表現する力や、さまざまな情報(図や表等)から必要な情報を読み取ったり考察したりする力、得た情報を多面的・多角的に考察する力に課題が見られました。

表①<平均正答率> ※()内の値は平均正答数

教科		平均正答率	
		東大阪市	全国
小学校	国語・6年	63% (8.8)	67.7% (9.5)
	算数・6年	58% (9.3)	63.4% (10.1)
中学校	国語・3年	53% (8.0)	58.1% (8.7)
	数学・3年	46% (7.3)	52.5% (8.4)

<児童生徒質問紙>

小中・義務教育学校ともに、「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と肯定的に回答している割合は、昨年度より増加しました。また、「先生は、自分の良いところを認めてくれている」と肯定的に回答している割合も、昨年度より増加しており、小中・義務教育学校ともに全国平均を上回っています。さらに、ICT 機器(PC・タブレット等)の授業での使用頻度は全国に比べて高く、活用が進んでいます。

一方、「SNS、動画視聴に費やす時間」が増加し、「家庭学習の時間」が比較的少ない傾向があることから、子どもたちの家庭での時間の使い方に課題がみられます。

<今後の取組み>

探究心(知的好奇心・ワクワク感等)を持ち続けるための「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、一人一台端末やAIドリルを効果的に活用しながら、教師主導の授業から、子ども主体の授業への転換を引き続き推進していきます。

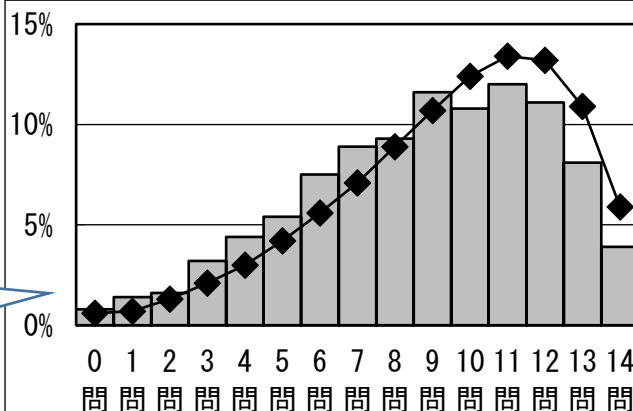
また、すべての子どもたちが誰一人取り残されない「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を図りながら、学びの基盤となる言語能力や情報活用能力等の向上をめざします。

小学校国語

	平均正答数	平均正答率(%)
東大阪市	8.8/14	63.0
全国（公立）	9.5/14	67.7



東大阪市
 全国（公立）



分類	区分	対象 問題数	平均正答率(%)	
			東大阪市	全国（公立）
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	59.6	64.4
		(2) 情報の扱い方に関する事項	82.2	86.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	71.9	74.6
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	52.3	59.8
		B 書くこと	62.4	68.4
		C 読むこと	67.7	70.7
評価の観点	知識・技能	6	65.4	69.8
	思考・判断・表現	8	60.6	66.0
問題形式	選択式	10	64.4	69.9
	短答式	2	55.2	59.7
	記述式	2	61.2	64.6

課題がある点

・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること

大問1二(2) 平均正答率 東大阪市 43.7% 全国 52.9%

<正答に必要な条件>

和田さんが、相手が興味をもっていることに気付いたことと、用意していた実物を示しながら話したことを捉えることができる。

<多かった誤答及び誤答分析>

和田さんが、相手が興味をもっていることに気付いたことを捉えることはできているが、用意していた実物を示しながら話したことを捉えることができていないと考えられる。

指導改善のポイント

相手や目的を意識しながら、自分の考えが伝わるように表現を工夫するよう指導することが重要である。音声言語だけでは聞き手が理解しにくかったり、誤解を招きそうだったりする場合などに資料を使いながら話すことや、聞き手の興味・関心や情報量などを予想し、どのような資料を用意すればよいかを考える場面を設定することが大切である。

<大問1二(2)(抜粋)>

深緑小学校 村本さん

② はじめまして。深緑小学校の村本です。今日は、とても楽しみにしていました。

③ メールありがとうございました。図書委員会のことを知りたいということでしたので、まず、海風小学校の図書委員会の取り組みのしようかいで、読書イベントが、月に1回、図書委員会で、クイズなどをして、私もそれに参加して、今まで読んだことがない分野の本を読みました。

④ せっかく教えてもらったのですが、だれが何をしているのが分からなくなったので、もう一度教えてもらえませんか。

⑤ 説明がよくなかったですね。話し方を変えますね。図書委員会が、月に1回、クイズなどの読書イベントをしてくれます。私もクイズに参加しました。今まで読んだことがない分野の本を読むことができました。

⑥ よく分かりました。おもしろそうですね。

⑦ そうなんです。先月の読書イベントでは、図書委員がさまざまな分野から本を選び、本の内容からクイズを出題してくれました。これが、実際に出題されたクイズが書かれたカードです。私も参加することで、科学の本に興味をもつことができました。

海風小学校 和田さん

① はじめまして。海風小学校の和田です。よろしくお願ひします。

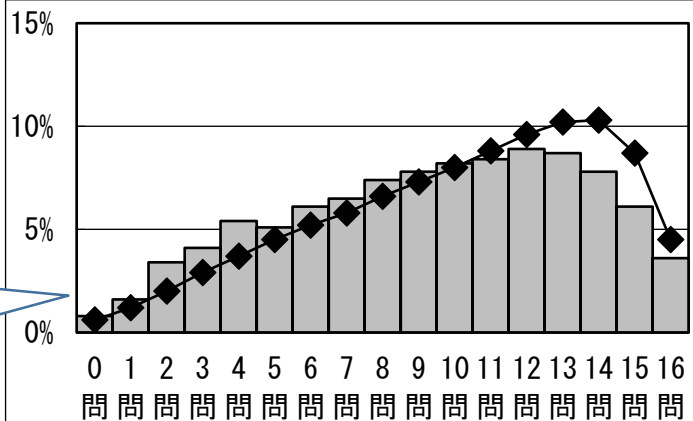
「オンライン交流の様子の一部」

小学校算数

	平均正答数	平均正答率(%)
東大阪市	9.3/16	58.0
全国（公立）	10.1/16	63.4



東大阪市
全国（公立）



分類	区分	対象 問題数	平均正答率(%)	
			東大阪市	全国（公立）
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	61.2	66.0
	B 図形	4	60.0	66.3
	C 変化と関係	3	47.4	51.7
	D データの活用	4	56.9	61.8
評価の観点	知識・技能	9	68.4	72.8
	思考・判断・表現	7	45.4	51.4
問題形式	選択式	5	70.3	75.3
	短答式	7	57.2	62.0
	記述式	4	45.3	51.0

課題がある点

・計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述すること

大問2(1) 平均正答率 東大阪市 47.8% 全国 56.9%

<正答に必要な条件>

次の①②のすべてを書き、④を5600と書いている。

- ① 16が2の8倍であることを表している式や言葉
- ② 700の8倍になることを用いて、 350×16 の積④を求める式や言葉

<多かった誤答>

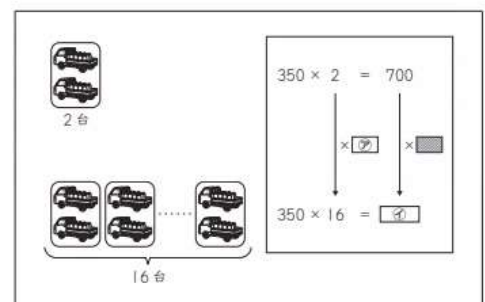
①を書いているが、②を用いて 350×16 の積④を求める式や言葉が記述できていない。

<誤答分析>

計算に関して成り立つ性質を活用して、計算を能率的に処理できる場合があることに気づき、計算を工夫できるようにすることに課題があると考えられる。

<大問2(1)(抜粋)>

そこで、あやのさんたちは、下の図のように、 $350 \times 2 = 700$ であることをもとに、 350×16 の積の求め方についてまどめました。
このとき、 350×16 のかける数「16」が、 350×2 のかける数「2」の何倍になっているかに着目しました。



上の④に入る数に着目すると、 350×16 の積④は、どのように求めることができますか。

④に入る数に着目したときの④の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、④に入る数をどのように求めたのかがわかるようにしましょう。

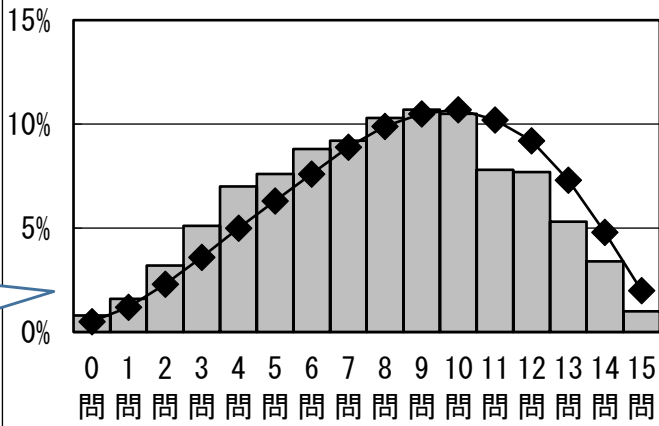
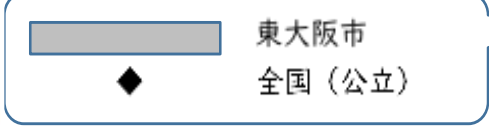
また、④に入る数も書きましょう。

指導改善のポイント

トラック2台で運ぶことができる米の重さが700kgであることを基に、重さの求め方を考え、説明する活動が必要である。その際、かける数を8倍にすると積も8倍になるという、計算に関して成り立つ性質を活用していることを、図や式を用いて場面と関連付けて理解できるようにすることが大切である。さらに、答えの求め方について、筋道を立てて説明できるようにすることも大切である。

中学校国語

	平均正答数	平均正答率(%)
東大阪市	8.0/15	53.0
全国（公立）	8.7/15	58.1



分類		区分	対象 問題数	平均正答率(%)	
				東大阪市	全国（公立）
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	3	55.6	59.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	56.3	59.6
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	69.8	75.6
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	52.4	58.8
		B 書くこと	2	60.0	65.3
		C 読むこと	4	43.5	47.9
評価の観点		知識・技能	6	58.2	62.0
		思考・判断・表現	9	50.1	55.4
問題形式		選択式	9	56.9	61.0
		短答式	3	58.6	61.8
		記述式	3	37.4	45.5

課題がある点

- ・ 話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめること

大問Ⅰ 四 平均正答率 東大阪市 36.1% 全国 44.7%

<正答に必要な条件>

次の条件を満たして解答している。

- ①フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいか具体的に書いている。
- ②【話し合いの一部】の誰の発言と結び付くのが分かるように書いている。
- ③実際に話すように書いている。

<多かった誤答>

- ①または②の条件を満たさないで解答している。

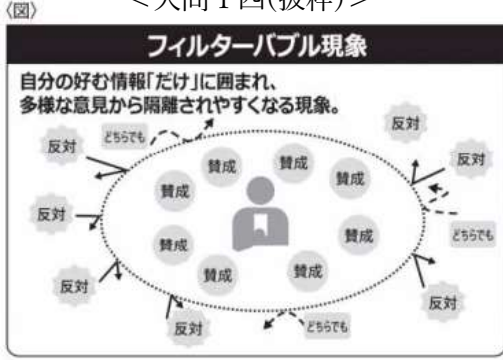
<誤答分析>

話し合いを通じて自分の考えをまとめる際に、何についてどのような目的で話し合っているかといった、目指している到達点を常に意識し、互いの発言を結び付けられるようにすることも課題がある。

指導改善のポイント

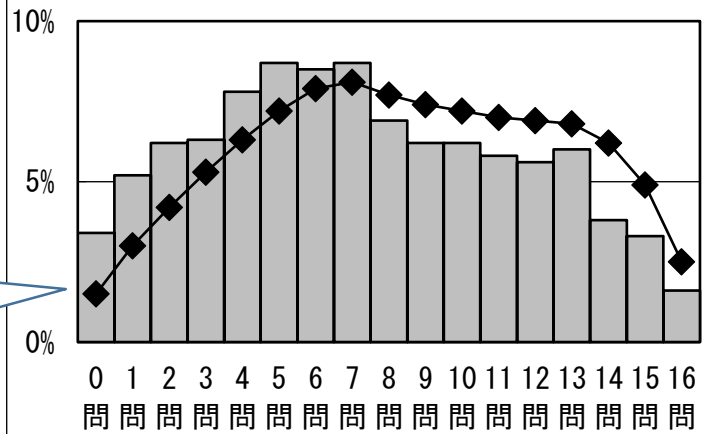
話し合いにおけるいずれの段階においても、話題を意識しながらその経過を捉えて話したり聞いたりすることができ、できるように指導することが大切である。また、話し合いの展開に応じて、互いの発言を結び付け、話し合った内容を踏まえて自分の考えをまとめられるように指導することも大切である。

<大問 1 四(抜粋)>

[illegible]

中学校数学

	平均正答数	平均正答率(%)
東大阪市	7.3/16	46.0
全国（公立）	8.4/16	52.5



分類	区分	対象 問題数	平均正答率(%)	
			東大阪市	全国（公立）
学習指導要領の領域	A 数と計算	5	44.3	51.1
	B 図形	3	35.0	40.3
	C 関数	4	54.3	60.7
	D データの活用	4	46.9	55.5
評価の観点	知識・技能	11	56.3	63.1
	思考・判断・表現	5	22.5	29.3
問題形式	選択式	5	51.5	58.5
	短答式	6	60.2	67.0
	記述式	5	22.5	29.3

課題がある点

・複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。

大問7(2) 平均正答率 東大阪市 16.7% 全国 25.9%

<正答に必要な条件>

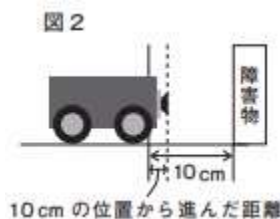
次の(a)又は(b)について記述している。

(a) 箱ひげ図の箱がだんだんと右側にずれていっていること。

(b) 第1四分位数と第3四分位数がだんだんと大きくなっていること。

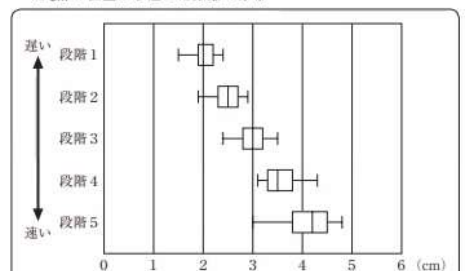
<多かった誤答>

箱ひげ図全体が右側にずれていっていることや箱ひげ図の箱の長さやひげの長さについて記述している。また、箱ひげ図の読み取りを誤って記述している。



<大問7(2)(抜粋)>

10cmの位置から進んだ距離の分布



	10cmの位置から進んだ距離(cm)				
	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
段階1	1.5	1.9	2.0	2.2	2.4
段階2	1.9	2.3	2.5	2.7	2.9
段階3	2.4	2.8	3.0	3.2	3.5
段階4	3.1	3.3	3.5	3.8	4.3
段階5	3.0	3.8	4.2	4.5	4.8

<誤答分析>

箱ひげ図等、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題があると考えられる。

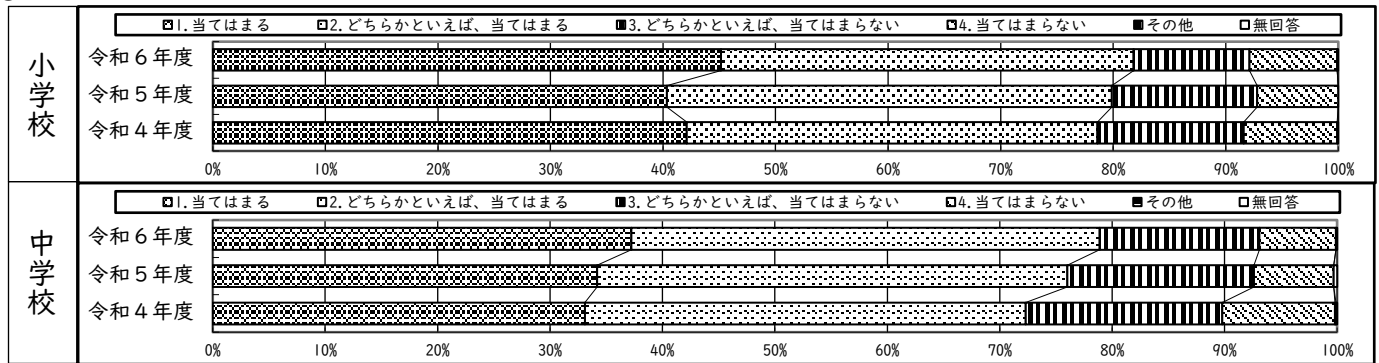
指導改善のポイント

日常生活や社会の事象を題材とした問題を解決するために計画を立て、必要なデータを収集して分析し、データの分布の傾向を捉え、その結果を基に考察し判断するという一連の活動を充実させることが大切である。

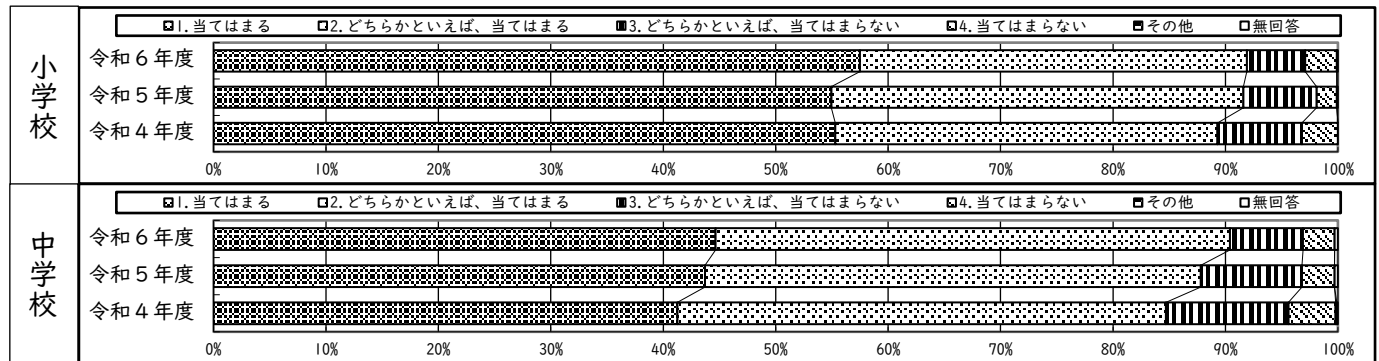
本設問なら、「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と判断できる理由について、箱ひげ図を比較することで検討し、数学的な表現を用いて説明することが大切である。

児童生徒質問紙調査 3年間の経年変化 <自己有用感に関すること>

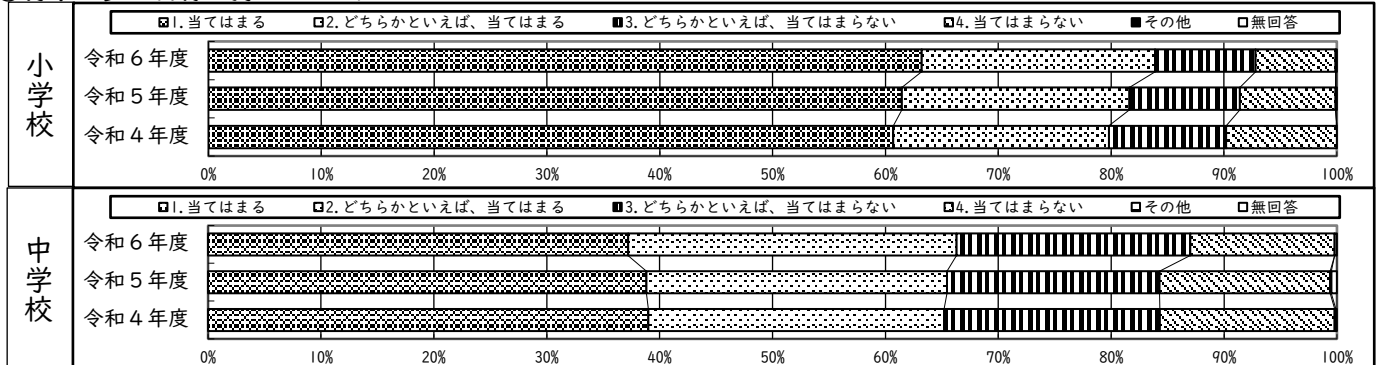
① 自分には、よいところがあると思いますか



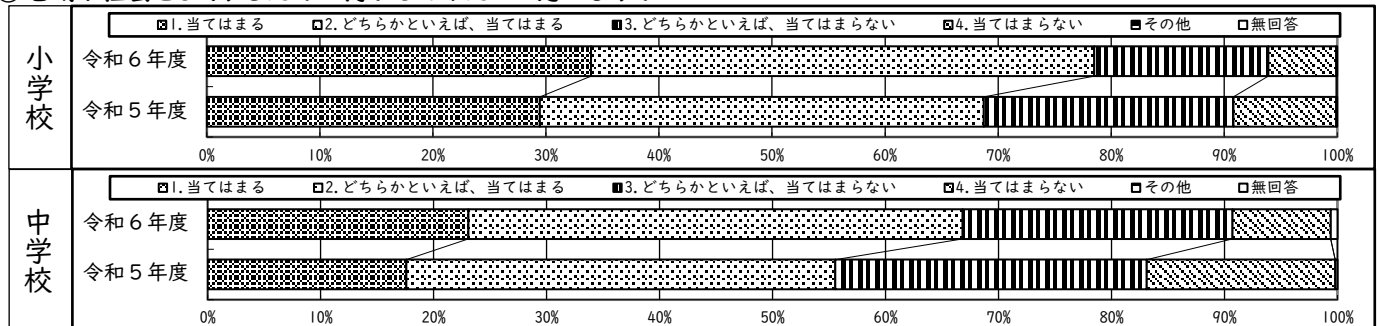
② 先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか



③ 将来の夢や目標を持っていますか



④ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

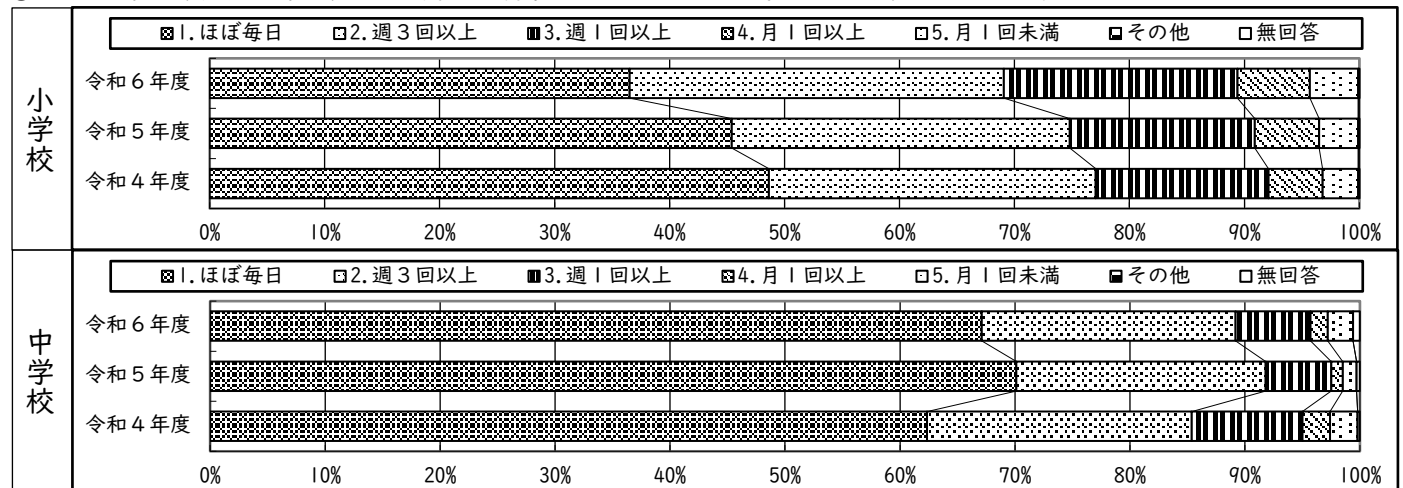


①～④のどの項目も、小・中学校ともに肯定的回答率（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）が増加している。①②については、子どもたちの自信の高まり、それによって先生との信頼関係も強くなっていることがうかがえる。また、③④については、子どもたちが自己の将来に対してビジョンや目標を明確に持っていることや社会貢献に対する意識の高まりがうかがえる。

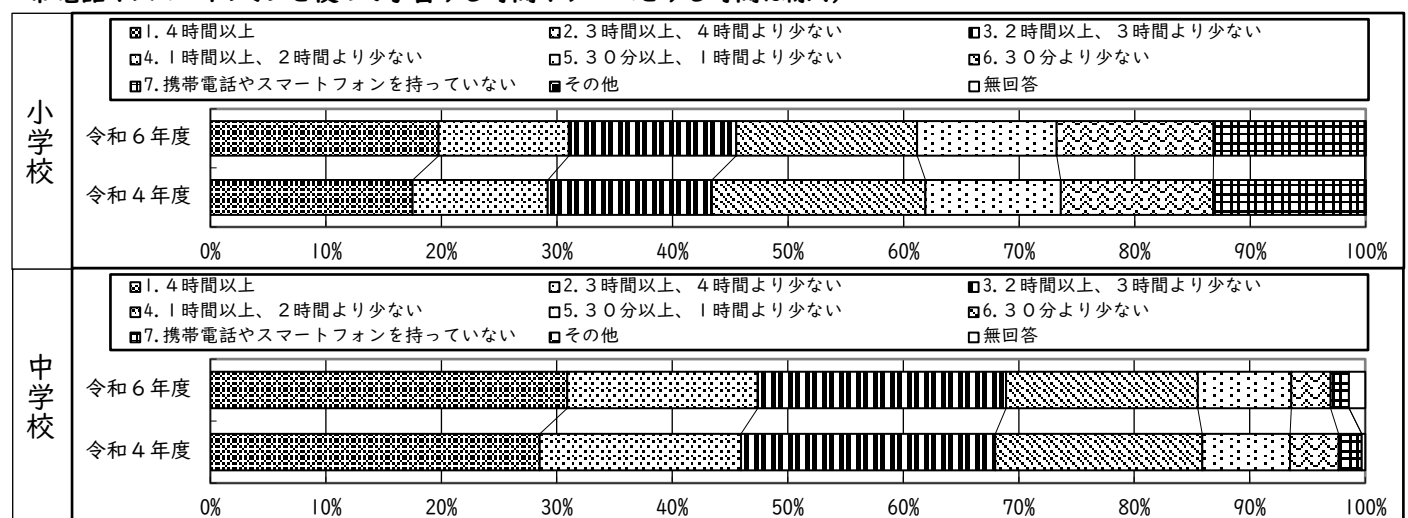
今後も、子どもたちが自身の個性や良さを認められる取組を進めるとともに、学校や教師との信頼関係を高めていくことが求められる。また、子どもたちが具体的な目標や計画を持ち、それを追及する力を育むとともに、社会の一員としての自覚や、地域貢献への意識の高まりをめざした取組を進めていくことが求められる。

児童生徒質問紙調査経年変化<ICT 機器の活用や家庭学習習慣に関すること>

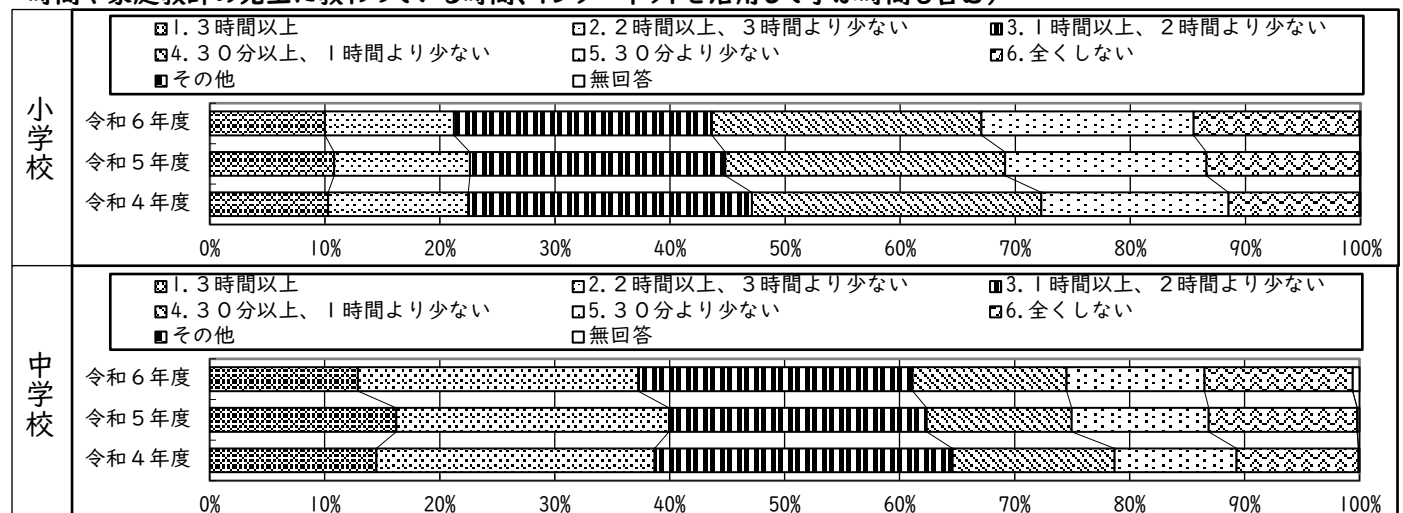
①小学 5 年生 (中学 2 年生) までに受けた授業で、PC・タブレット等の ICT 機器をどの程度活用しましたか



②普段 (月曜日から金曜日)、1 日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか (携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)



③学校の授業時間以外に、普段 (月曜日から金曜日)、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか (学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



①については、活用頻度については下降傾向だが、「ほぼ毎日」と回答した割合は全国 (小: 25.3%、中: 31.0%) と比較して依然高い。②③については、SNS や動画視聴に費やす時間が増加傾向にある一方、家庭学習にかかる時間が減少傾向にある。

今後も、すべての教育活動において、ICT も活用しながら、「探究のプロセス (①課題の設定②情報の収集③整理・分析④まとめ・表現)」の質的向上を図り、探究心 (知的好奇心・ワクワク感) を持ち続けるための「主体的・対話的で深い学び」の実現をより一層図る必要がある。

令和 6 年度全国学力・学習状況調査概要

調査目的 教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国の状態との関係において、児童生徒の学力や学習状況を把握分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査日 令和 6 年 4 月 18 日（木）

調査対象 小学校 6 年生/義務教育学校 6 年生、中学校 3 年生/義務教育学校 9 年生

調査内容 小 学 校：国語・算数
中 学 校：国語・数学
小中共通：児童生徒質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）
学校質問紙調査
（指導方法に関する取組みや人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

調査問題
➤ 学習指導要領で育成をめざす、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題が出題された。
➤ 各大問において「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージが発信された。

今年度調査の特徴
➤ 児童生徒の質問調査が全面的にオンラインによる回答方式で実施された。

調査結果の取扱いに関する配慮事項
調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど、教育上の効果や影響等に十分配慮すること。

関連サイト

- 令和 6 年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について
<https://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm>
- 東大阪市学校教育基本目標・重点目標
<https://www.city.higashiosaka.lg.jp/kosodate/0000005027.html>
- 東大阪市の学校教育
https://www.city.higashiosaka.lg.jp/kosodate/cmsfiles/contents/0000011/11826/R5_gakkoukyouiku.pdf
- 東大阪市教育行政に関する大綱（改訂版）
<https://www.city.higashiosaka.lg.jp/cmsfiles/contents/0000016/16422/taikoukaitei.pdf>

